

郷土を知る
むかしむかし

昔々の そお市

開

第51回

たいらのすえもと
平季基

～島津荘のパイオニア～

生涯学習課 文化財係 ☎ 0986-76-8873

か

つて、私たちが暮らす曾於市一帯は島津荘という荘園の一部でした。末吉町南之郷橋野の若一王子神社近くに、この島津荘開発に深く関わった平季基のものとされる小さな墓が残されています。

季基は生没年不詳、出自不詳と謎が多い人物ですが、今年の大河ドラマ「光る君へ」に登場する右大臣藤原実資が記した日記「小右記」に記載があることから、平安期に大宰府で大監という地位の役人を務めていた実在の人物であることは確かです。

万寿年間（1024～1028年）に日向国諸県郡島津（現在の都城市周辺）の地が肥沃で広大であったところに目を付け、季基は弟の良宗とともに当地の開発を始めます。やがて、開発した土地を時の権力者である関白藤原頼通へ寄進します。これが、のちに日本最大の荘園と呼ばれた島津荘の始まりです。季基は寄進後も当地で荘官として荘園の管理にあたりたと思われま

す。時代を少し下りますが、鎌倉期に当地の下司職として任命された

のが御家人惟宗忠久です。忠久は島津の地名を姓とし、島津家の始祖となります。

季基は娘婿の伴兼貞に荘官職を譲り、末吉町橋野本明屋敷（現在の墓の南方）に屋敷を構え隠居したと伝わります。また都城市梅北の神柱宮（現・黒尾神社の場所）、若一王子神社を創建したのも季基であり、自ら祠官を務めたと言われています。ちなみに、季基の木像が永らく橋野の祠に安置されていました。現在は、神柱宮境内にある基柱神社の御神体となり、事業繁栄の神様として崇められています。

季基が島津荘を開発した正確な年について諸説ありますが、開発から1000年近くが経過するこ



平季基の墓



とは間違いないと思われま

す。季基の開発が無ければ、私たちが暮らす地域の発展は無かったのかもしれない。この機会に、島津荘のパイオニア季基の功績にあらためて注目してみても良いでしょう。

荘園……貴族や寺社による私領所有の形態。開墾や寄進により拡大していった。

関白……成人した天皇を補佐する官職。官職の中では最高位。

下司職……荘園の治安維持や租税の徴収にあたった役人。